

1. 研究活動

＜学会発表＞			
日本音楽学会中部支部第 102 回例会 新刊紹介 名古屋芸術大学音楽総合研 究所（音楽学）発行 『日本大正村所蔵 音楽器 総図録』（2010 年）	2011. 7. 9	中京大学名古屋キャンパ ス センタービル7階 0703 教室	本冊子は、総点数 1245 点におよぶ楽器、音具、 多種の音楽再生装置、楽譜、人形等、日本大 正村の所蔵する全音楽関係資料についての総 図録であり、平成 23 年に大正 100 年を迎え るに際し、日本大正村の記念事業の一環とし て同村の全面的協力を得て行った調査の報告 書である。約 2 年半に渡る調査の概要や冊子 の内容に関して紹介を行った。
＜著書＞			
『絹箏弦のインターフェイ ス研究 報告書』 (平成 23 年度 貞明皇后蚕 糸記念科学技術研究助成) (共著)	2012. 3	共同研究（代表者 徳丸 吉彦） 研究主催者 大日本蚕糸 会	元来、琴糸には絹糸が張られたが、近年では、 「価格が低く、強い」という理由から、化学 繊維が多く用いられている。しかし、音色の 点では絹の弦は化学繊維に比べてはるかに優 れていることは明らかである。本研究会は、

			大日本蚕糸会の協力を得て発足され、低価格で強い絹糸弦を作るにはどうすれば良いかを研究することを目的とする。本報告書では、繭の種類による琴糸の違い、琴糸の製作方法、強度調査など、1年間の調査研究結果を記している。
『大正琴資料図録—博物館・資料館等の所蔵品による』(監修)	2011. 8 発行	(社)大正琴協会(名古屋)	大正琴誕生 100 年に際して、現存する歴史的な大正琴の所在を明らかにすべく、全国の博物館や資料館に協力を得て、大正琴の所蔵状況を調査した。その結果、全 216 点の大正琴に関する情報が集まった。本図録は、そのすべてを掲載したものである。図録の作成を通して、大正琴の全国的な広がりを再認識することができる。
映像資料 (DVD) 「大正琴の歴史—誕生 100 年を記念して—」(監修)	2011. 12	(社)大正琴協会	大正琴が考案されてから今日に至るまでの 100 年の歴史をまとめた DVD 資料。(約 15 分間)
<社会活動>			
平成 23 年度子ども大正琴コンクール	2011. 8. 21 (日)	名古屋：ウイル愛知 ウイルホール 主催 社団法人 大正琴協会	全国の子どもの大正琴愛好者を対象としたコンクールの審査員。 全国より多数の幼稚園児、小学生、中学生等が出場し、大正琴の演奏技術を競った。

## 2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 音楽教育Ⅲ		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
新聞紙上に掲載された音楽に関わる記事を取り上げ、その内容について議論を行った。今年度は、震災と音楽にかかわる新聞記事が多く、「今、音楽に何ができるか」について議論を重ねた。1年間の結果は、報告書『新聞に見られる音楽記事』としてまとめ、全受講生に配布した。		

## 3. 学会等および社会における主な活動

日本音楽学会	2011. 4 ~ 2013. 3	日本音楽学会 中部支部 支部長
--------	-------------------	-----------------